看護かごしま

Nursing Kagoshima

http://k-kango.jp

2017.Autumn Vol.169

奄美市　用の浜（写真：牧　吏志）

◆ 鹿児島県看護協会業務執行理事近況報告 …… 2
◆ 平成 29 年度鹿児島県看護協会通常総会でのご意見への対応について …… 3
◆ 平成 30 年度　公益社団法人鹿児島県看護協会　役員・推薦委員並びに
　平成 31 年度　日本看護協会通常総会の代議員及び予備代議員の公募について
◆ 鹿児島県看護協会のホームページに会員専用ページを開設しました。
◆ 平成 30 年度予算に係る県知事への要望書を提出しました …… 4
◆ 鹿児島市と災害時における福祉避難所等の人的支援に関する協力協定締結
◆ NHK 大河ドラマ『西郷どん』ロケ現場での救護活動 …… 5
◆ 職場紹介　鹿児島県立大島病院 …… 6
◆ めざせ認定看護師 …… 7
◆ ピタッとカエルディの実施状況調査報告　（社会経済福祉委員会） …… 8
◆ いきいきと生活・仕事している powerful age の紹介 …… 9
◆ 平成 29 年度 「保健師・助産師・看護師合同研修会」報告 …… 10
◆ 性教育推進事業支援会報告 …… 11
◆ 平成 29 年度　糖尿病重症化予防（フットケア）研修会報告 …… 12
◆ 入会のご案内
◆ 看護小規模多機能事業所　フォーピース紫原を開設しました …… 13
◆ 会員特典のご案内 …… 14
◆ 地区だより …… 15
◆ ナースセンターだより …… 17
◆ 理事会報告 …… 20

平成 29 年度鹿児島県看護協会会員数

保健師	414 人
助産師	385 人
看護師	10,172 人
准看護師	735 人
合計	11,706 人

平成 29 年 10 月 4 日現在

公益社団法人鹿児島県看護協会　業務執行理事近況報告

公益社団法人
鹿児島県看護協会会長　田　畑　千穂子

初秋を迎えて、皆様にはお変わりありませんでしょうか？　今年の夏は、国内外ともに大規模な自然災害に見舞われました。被災されました方々の早い復興をお祈りいたします。本県は鹿児島湾で発生した震度５強の地震の影響は軽度で本当に幸いでした。

さて、日本看護協会は創立 70 周年を迎えております。70 周年を契機とした広報活動のタグラインに「生きるを、ともに、つくる。」が決定しました。親しまれるタグラインをよろしくお願いいたします。また、11 月 20 日に皇后陛下の御臨席のもと記念式典が予定されております。

9 月現在、特定行為研修修了者は全国で 583 名、本県では 16 名（皮膚・排泄ケア認定看護師 2 名を含む）です。パイオニア的存在としての活躍が期待されます。9 月の社会保障審議会で、日本看護協会は、医療現場の勤務環境改善や、看護職員の夜勤負担軽減、訪問看護は量だけでなく機能強化、糖尿病などの生活習慣病の重症化予防が重要であること、特定行為研修修了者の活用がチーム医療推進につながることを求めております。また、日本看護協会は特定行為研修を含む認定看護師制度の再構築に向け、看護界の合意形成を得て、2020 年度の「新たな認定看護師制度の仕組み」を検討しております。新たな認定看護師制度へ関心を寄せて頂ければ幸いです。

加速度的に変化していく中で、皆様の施設を取り巻く環境の変化を情報共有していくことが最も重要と考えております。平成 29 年度も後期に向けて、更なる皆様のご理解と協力をお願いいたします。

公益社団法人
鹿児島県看護協会専務理事　原　田　ケイ子

本年は台風による被害を想定し全県下で避難勧告が出ましたが、皆様方におかれまして被害はありませんでしたか。被害に遭われた会員・御親族の方には心より見舞い申し上げます。看護研修会館は立て看板が折れる被害にあい、新たにピンク色の背景の立て看板を設置しましたので協会に来られた時は玄関入口もご覧ください。また、災害対応の取組としましては本年 5 月、助産師職能委員会で冊子「分娩施設における災害対策マニュアル」を作成し関係施設に配布し、災害看護検討委員会では 8 月に「災害支援ナースハンドブック」を改訂しました。現在、近年の全国的な災害時の対応等に鑑み「鹿児島県看護協会災害対応マニュアル」の改訂に向けて見直しに取り組んでいます。

さて、平成 29 年度上半期の主な取組を紹介いたします。理事会･運営委員会･常任委員会･特別委員会等も各設置目的に則り，計画どおり運営されております。特に本年度新規事業として鹿児島県から受託した「平成 29 年度鹿児島県訪問看護供給体制推進事業」は４つの事業がありますが「訪問看護事業者実態調査」と「訪問看護理解・連携促進事業」については関係機関の協力をいただきながら現在実施しているところです。また､「訪問看護事業者によるサービス提供体制強化事業」や「医療・介護事業者ターミナルケア促進事業」も下半期に実施できるよう関係機関や講師依頼など準備を進めています。

また、本年は日本看護協会から事業応募のあった「地域における看護職のネットワーク強化事業」も採択され、各理事の協力を得ながら実施しています。中でも会員メリットを感じていただくためにも離島やへき地にお住いの会員の方、なかなか研修を受けたくても日程等調整がつかない方等のために 10 月から本協会ホームページに会員専用ページを設置し一部ですが研修資料を公開しましたので御活用ください。（詳細はトピックス欄を参照ください。）

下半期は、本年度未実施事業の推進を着実に進めるとともに、来年度の事業計画案策定等も行っていくこととしておりますので皆様方の御意見・御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

公益社団法人
鹿児島県看護協会常任理事　内　司　啓　子

国際社会の平和と安定を願う昨今ですが、皆さまにはいかがお過ごしでしょうか。
平成 29 年度もあっという間に 10 月に入りました。

本年度計画していました研修は､関係者の多大な協力を得て予定通り実施しています。診療報酬の加算対象の研修の内「糖尿病重症化予防（フットケア）研修」「精神科訪問看護研修会」は、今年度、厚生労働省に該当研修として認めて頂き研修を開催することが可能となりました。上半期に特に人気が高かった研修は「退院支援」で応募者数 200 名に対し、申込者数 269 名でした。

研修では、４名のシンポジストにお話ししていただきました。それぞれの特徴を踏まえた退院支援の取り組みが紹介され、受講生にとっても学びの多い１日になったようです。

下半期には､県委託事業として｢認知症対応力向上｣｢精神科訪問看護｣｢エンド･オブ･ライフケア｣研修などを予定しています。「認知症対応力向上」研修は、最近特にニーズが高い傾向にあります。今年度は、奄美地区でも開催できることになりました。

また、平成 31 年度に開催予定の日本看護学会―慢性期看護―学術集会の準備委員会を立ち上げていきますので、どうぞ御協力よろしくお願いいたします。

医療安全に関する新たな情報としましては､日本看護協会･日本病院薬剤師会が主催して『カリウム製剤投与間違いの撲滅』キャンペーンに取り組むことになりました｡鹿児島県看護協会におきましても､医療･看護安全対策検討委員会や医療安全ネットワーク委員会を中心に発信していきたいと考えています。

ナースセンター事業では、地域ハローワーク看護職員相談事業が県委託継続事業になりました。今後、ハローワーク伊集院も追加して取り組んで参ります。

どの事業につきましても皆さまのご協力があって実施できていると感謝しております。また、これからも皆さまの声をできるだけ反映して進めていきたいと思いますので、是非、折に触れどうぞお声をお聞かせください。

平成 29 年度鹿児島県看護協会通常総会でのご意見への対応について

鹿児島県看護協会通常総会から早 4 カ月が経ちました。大変遅くなりましたが総会でいただいた御意見への取り組みについてお知らせいたします。

【ご意見】1　専任教員養成講習会を県内で開催できるようにしてほしい

現在、本協会としては鹿児島県と看護教育協議会に協力しながら、講習会のカリキュラム、開催場所、講師、対象者等の具体的な内容について検討しています。また県に次年度の開講を目標に重点事項として予算要望書も提出しました。開講が決まりましたら、臨床現場の方も受講できるよう早めの情報提供を行います。

【ご意見】2　看護の日・週間行事の記念式典において惣万佳代子先生の講演に感銘を受けた。次年度も素晴らしい企画をお願いしたい。

看護の日・週間行事実行委員会でご意見の趣旨など踏まえて内容を検討していきます。

平成30年度　公益社団法人鹿児島県看護協会　役員・推薦委員並びに
平成31年度　日本看護協会通常総会の代議員及び予備代議員の公募について

平成 30 年度鹿児島県看護協会役員・推薦委員並びに平成 31 年度日本看護協会通常総会の代議員及び予備代議員は、平成30年5月の通常総会において選出されます。次年度（平成 30 年度）に改選される役員・委員並びに平成 31 年度日本看護協会通常総会の代議員及び予備代議員について公募を行いますので、立候補される方は次の要領で届け出てください。

役職名	公募数
会長	1名
副会長	2名
助産師職能理事	1名
准看護師理事	1名
地区理事（鹿児島）	1名
地区理事（南薩）	1名
地区理事（出水）	1名
地区理事（大隅）	1名

○公募する役員・推薦委員会委員・代議員及び予備代議員は次のとおりです。
○正会員５名以上の推薦が必要です。（定款施行細則第 14 条）
○届出書（様式）に必要事項を記入し、提出してください。

委員名	公募数
推薦委員	7名

平成31年度日本看護協会通常総会

代議員・予備代議員	公募数	摘　　要
代議員	7名	各地区から1名
予備代議員	7名	

※日本看護協会代議員は、会員数により人数が決められます。今後、日本看護協会から依頼がありますが、代議員数に変更があった場合は、ホームページや平成30年1月発行予定の「看護かごしま」に掲載します。

届出用紙・届出先・届出期間

・届出用紙は、鹿児島県看護協会ホームページからダウンロードして下さい。
・届 出 先 :〒890-0064　鹿児島市鴨池新町 21-5
　　公益社団法人鹿児島県看護協会選挙管理委員長宛
・届出期間：平成 29 年 11 月 1 日～平成 30 年 2 月 20 日
・照会先等：電話　099-256-8081　ホームページ：http://k-kango.jp
※立候補者、推薦委員会からの推薦を受けた者いずれも総会 2 週間前には会員に公表します。

鹿児島県看護協会のホームページに会員専用ページを開設しました。

○ 本会の研修会時等の資料をはじめ看護協会からの情報提供です。
○ 会員専用ページはホームページのトップ画面の右上にあります。
○ 閲覧は会員専用ページを開いたらパスワードを入力します。
○ パスワードは各地区長、本協会に電話などで問い合わせてください。

会員専用ページはココ！

ほっとニュース

1 平成30年度予算に係る県知事への要望書を提出しました

鹿児島県看護協会は、平成 29 年 8 月 10 日、平成 30 年度鹿児島県予算等に関し以下の看護職員確保対策等に対する要望を行いました。

1　要望先：鹿児島県知事（保健福祉部長）

2　要望事項

(1)　看護職員の確保・定着支援策について

○　ナースセンター事業の充実・強化

○　訪問看護師の確保・定着促進

○　看護師等養成所の運営費補助金の継続

(2)　看護の質向上について

○　専任教員養成講習会の実施（看護基礎教育の充実）

○　基礎教育 4 年制の推進

○　准看護師の研修及び進学支援

(3)　在宅医療の推進について

○　統括保健師の配置促進及び育成・能力向上への支援

○　地域での多職種連携事業の推進

○　訪問看護供給体制（在宅における終末期ケアの推進を含む）の整備

(4)　特定行為に係る看護師の研修制度の推進について

○　研修制度について、医療関係者及び県民への周知

○　研修受講者及び看護師を派遣する施設に対する財政支援等

2 鹿児島市と災害時における福祉避難所等の人的支援に関する協力協定締結

災害時に高齢者や障がい者等を受け入れる福祉避難所等へ、県看護協会と 7 医療福祉団体が専門的な支援を行うこととして、平成 29 年 9 月 27 日（水）、鹿児島市役所で「災害時における福祉避難所等の人的支援に関する協力協定締結式」がありました。

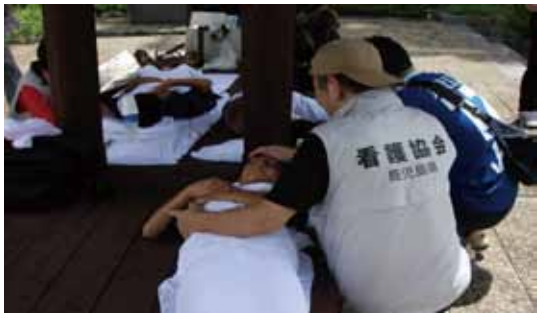
協定締結式では県看護協会長が代表で被災者の心に寄り添う人的支援に臨みたいと挨拶しました。

3 NHK 大河ドラマ『西郷どん』ロケ現場（姶良地区）での救護活動

平成29年8月26日（土）NHK大河ドラマ『西郷どん』ロケ現場（姶良地区）にて撮影参加者の体調管理や体調不良に伴う看護を目的に、鹿児島県看護協会を代表し救護員として参加しました。撮影は、蒲生町掛橋坂と加治木町精矛神社にて行われました。当初の天気予報は晴れ時々くもりでしたが、午前9時頃より、断続的に激しい雨に見舞われ撮影も一時中断するほどでした。また、今回の撮影は子役を中心に役者10名、エキストラ230名が参加し、30℃を超える気温の中甲冑を身にまとっての撮影だったためか、気分不良や草鞋による擦過傷、転倒による捻挫等21名の子ども達へ対応しました。幸い大事に至らず水分補給や休養、湿布などの対応で元気を取り戻すことができホッとしました。

【蒲生町掛橋坂】

笑顔で撮影現場に向かう鎧姿の子役達



子供達への救護活動風景

【加治木町精矛神社】

精矛神社に鎧甲姿の中・高校生エキストラが集結

気分不良者に対しての看護

看護協会を代表して、原田ケイ子専務理事、国立病院機構南九州病院から鮫島明子姶良伊佐地区理事、西郷涼子姶良伊佐地区書記、的場浩二姶良伊佐地区教育委員長の４名で参加しました。短い時間ではありましたが、『西郷どん』の撮影現場という非日常の世界を垣間見て、幕末にタイムスリップしたような感覚になりました。来春放映予定の『西郷どん』からますます目が離せません。貴重な体験をさせて頂き有難うございました。

姶良伊佐地区教育委員長：的場浩二

NHK 大河ドラマ『西郷どん』ロケ現場（南九州市）での救護活動

平成29年8月27日（日）は前日の姶良地区からNHK大河ドラマ『西郷どん』ロケ現場を知覧町に移しての、救護活動を加世田保健所から保健師の永濱たか子技術補佐、日高貴子技術主査、南谷さやか保健技師、薩南病院からは中村昭子地区長、屋和代書記、玉利美智子看護師長が実施しました。撮影は、知覧町武家屋敷で、午前中は一時的に豪雨に見舞われましたが、午後からは好天気になり撮影は子役を中心に役者、エキストラ300名を超える参加者で甲冑や脚絆、草鞋を身にまとっての撮影で、気分不良や草鞋による擦過傷等約10名の子ども達へ対応しました。前日２人ずつの救護体制のため急遽3名体制で対応し、具合の悪い子どもの所へ駆けつけての対応を行いました。この日も救急搬送することなくすみ、ホッとしました。

南薩地区長：中村昭子

総看護師長　寺師　敬子

施設の概要と理念

鹿児島県立大島病院は、鹿児島から西南海上383km に位置する奄美大島にあり、北は、東シナ海、南は、太平洋に面する亜熱帯地域で、珍しい動植物が生息し、平成 29 年 3 月には、国立公園の指定を受けた奄美大島の中核病院となっています。

歴史は古く明治 34 年設立した病院です。ベッド数 350 床、診療科目は、総合内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、人工透析科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、精神科、救急科、歯科口腔外科及び病理診断科の 20 科が設置されています。

奄美群島は地理的に本土と離れており、かつ多くの離島、僻地及び無医村地区を有し、当病院は、「公立病院として、奄美の医療に貢献し、住民に信頼される病院を目指します。」の理念の下、群島内の基幹病院として一般医療と僻地医療の両面から地域住民の医療の確保並びに医療水準の向上に努力しています。

平成26年度には離島唯一の施設・設備として救命救急センターを運用開始するとともに、平成28年度には、念願のドクターヘリが運航を開始し、1 日1.2件のフライトとなっており、医療需要は高まっています。そのためスタッフは、大島本島での医療完結を目指し、日々研鑽しています。現在 7：1 看護、固定チームナーシングを実践中です。

看護の取り組み

地域包括システムの構築を視野に、病院のレベルは勿論、地域看護の均てん化を図るためあらゆる院内研修を開放し、訪問看護ステーションの研修等、地域で学習を進めていけるよう、計画、実施、評価を行っています。昨年は、初めての助産師ラダー 3 の研修、直近の 6 月 27 日の第 1 回大島看護セミナー（大島病院認定看護師会主催）においては、院外から多職種が集まり 134 名（院内 20 名) の参加者が訪れ熱心に受講されました。その他にもケアの質を高めるため、意思決定支援、疼痛とスピリチュアルケア、傾聴、対人援助論セミナー、スピリチュアルケア研修会、8 月の看護協会と協賛の［エルネック J in 奄美］と様々な研修計画をたてています。人材育成、教育の重要性を痛感しています。今年度から看護協会と協力し、大島で初めて合同の新人教育をスタートしました。

患者さんが、住み慣れた場所でその人らしく安心、安全に生活を営まれることができるために地域の方々に活用していただけたらと願っております。

またドクターヘリの状況ですが、当院から遠方の離島、僻地から突然来院となる衝撃は強く、家族、御本人の戸惑いは、図り知れず、思いに寄り添い、環境の変化を少しでも和らげるよう多職種で連携し、自宅にスムーズに帰れるように進めていきたいとチーム一丸となっております。

7 月に入り、離島で初めての脳死下臓器提供に係わり、尊い決断をされた家族の思いに触れ関係者一同心をふるわせた事案がありました。

また移植コーディネーターをはじめとした、多職種チームの命を繋ぐ思いや行動を目の当たりにして、胸が熱くなりました。

たくさんの職員、関係者により繋がれた命の大きさと、ご家族の深い想い、悲しみは何とも言葉で表現できない気持ちが交錯しました。

今後の課題

今後の課題としては、患者、家族が意思決定できるような援助が必要であり、そのスキルを磨き、地域に貢献する事と、地域を巻き込んで、地域住民が満足できるような体制づくりが必要だと思います。

マグネットホスピタルを目指し、患者、家族、職員が、ここに存在して良かったと思えるような環境を整えたいと思います。

コバルトブルーの海、澄みわたる青空、緑豊かな山、珍しい動植物に囲まれた自然豊かで、結いの島、奄美に是非お越しください。

Hospital Information

病床数	350 床（H16 から 50 床 休床中） （一般病床：335 床・結核病床：15 床）
職員数	398 人

認定看護師紹介

めざせ！認定看護師

「やりがい、自身が大切にしていること」

鹿児島厚生連病院6階病棟主任
慢性呼吸器疾患看護認定看護師
原田　香織

「息が苦しくて、死ぬ思いをしたんだよ」
「自分が悪いんだよね、ずっとタバコやめなかったから。バチが当たったんだ」
「この苦しさはあんたにはわからんよ」

“息が苦しい”という症状は不快であり、患者さんに死をも連想させる恐怖と言われています。看護師として働く中で、患者さんの気持ちを聞く機会はたくさんありました。しかし、話を聞くことができても患者さんの満足するケアにつなげられていない、具体的に実践する知識や技術が不足していることを痛感するようになりました。多くの非がん疾患である慢性呼吸器疾患患者さんとの関わりの中で、もっと具体的に患者ケアについて理解し実践できる看護師を目指したいと思い、慢性呼吸器疾患看護認定看護師の道を目指しました。

普段は病棟勤務であり、活動時間としては月に 1 ～ 2 日です。主に、慢性疾患患者ラウンドや患者教育のための資料作り、院内マニュアルの見直しを行っています。院内の教育プログラムにおいては、経年別の人工呼吸器看護の企画･実施、専門研修の開催などを行っています。また、資格習得後には RST（呼吸サポートチーム）を立ち上げ、対象者のラウンドを行いながら、早期に人工呼吸器離脱できるようチームで取り組んでいます。

現場では、患者さんが何に困っており、何ができたら患者さんの自立につなげられるのかを大事に話を聞くようにしており、患者さんや家族が少しでも不安を減らして在宅へ帰ることができるよう、多職種で支援しています。特にきつくて食べられない、苦しくて動けないとおっしゃる患者さんが多いので、栄養士と理学療法士との連携は不可欠です。

また、内部障害であることから周囲に理解されにくい苦悩があることを理解した上で、つらいことを推察しながら関わることで、「そうそう、そうなんだよ」と表情を変え、目を合わせて話をしてくださることもあり、指導を行った後の患者さんの表情の変化を見ることができた時に、この資格を得てよかったと実感します。また、慢性疾患ではありますが、徐々に進行する病状や急性増悪により、終末期を迎える患者さんも少なくありません。患者さんの病状が安定しているときから、患者さんが生活を営んでいくにあたり大切にしていることを確認しながら、療養生活環境を整えていく支援をみんなで取り組んでいく必要があると考えています。

慢性呼吸器疾患看護分野は比較的新しい分野であり、慢性呼吸器疾患看護認定看護師は県内においてもまだ 2 名しかおらず、地域における活動としては、他の分野の方々に比べて行えていない現状があります。今後は、多くの医療スタッフと連携を図り、慢性疾患を抱える多くの患者さんのより安定した生活を切れ目なく行えるよう取り組んでいきたいと思います。

ピタッとカエルディの実施状況調査報告　（社会経済福祉委員会）

私たち、社会経済福祉委員会は、働きやすい職場環境を目指して、ＷＬＢ推進の広報および啓発活動を行っており、ノー残業ディ推進に取り組んでいます。今回、現在の課題を抽出し、今後の活動の参考とするため「ピタッとカエルディ」に焦点を当てて現状調査を実施いたしました。

１．調査対象　鹿児島県内の医療施設

２．調査期間　平成 28 年 11 月～ 12 月

３．調査方法　各施設にアンケート用紙を郵送し、返信用封筒で回収、アンケートは無記名とし、返送をもって調査への同意とした。

４．分析方法　単純集計、カイ二乗検定（統計ソフト　SPSS　Statistics 23）。

５．調査内容

１）施設の属性、２）ワークショップ参加の有無、３）ピタッとカエルディの取り組みの有無・方法、成果の有無・成果の内訳、４）実施するにあたり工夫したこと、５）取り組んでいない理由
６）ピタッとカエルディ以外に超過勤務削減のために取り組んでいること。

６．調査票の回収結果

郵送数 252 施設、回収数 112 施設（回収率 44.4%）、有効回答 106 施設（有効回答率 42.1%）。

７．結果・分析

１）施設属性

500 床以上 1.9%、499 ～ 200 床以上 19.8%、199 ～ 20 床 78.3%、20 床以下 0%。

２）ワークショップ参加の有無

①はい 23.6%、②聴講のみ 32.1%③いいえ 44.3% であり、はいまたは聴講のみと答えた施設の内訳は、500 床以上 3.4%　499 ～ 200 床以上 23.7%　199 ～ 20 床 72.9% であった。

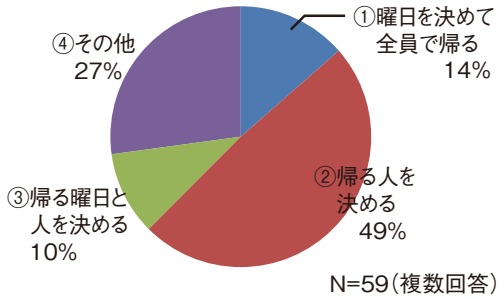


図1　ピタッとカエルディの取り組み方法

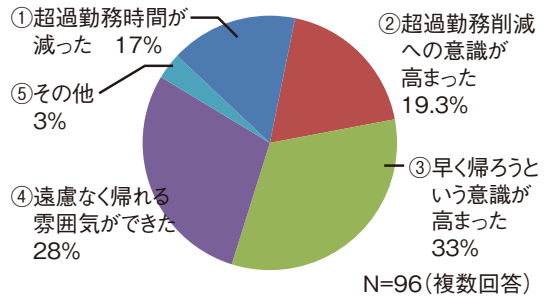


図2　ピタッとカエルディの成果の内訳

３）ピタッとカエルディ取り組みの有無、方法、成果の有無、成果の内訳

①取り組み「有」43.4%　②取り組み「無」56.6% であった。「有」と答えた施設をワークショップの参加別でみると、「有」又は聴講のみと答えた施設は 69.6%、「参加なし」と答えた施設は 30.4% で、両者間で P=0.018 と有意な差を認めた。ピタッとカエルディに取り組んだ施設では 89%で成果があったと答えており、ピタッとカエルディの方法は、帰る人を決めるが最も多かった（図 1）。成果の内訳では「早く帰ろうという意識が高まった」33%、「遠慮なく帰れる雰囲気ができてきた」28% であった（図 2）。

４）ピタッとカエルディを実施するにあたり工夫したこと

業務改善に取り組みながら、マスコットをつける、誰にでもわかるように表示するなどのアピールの工夫をして、意識を高める。ピタッとカエルディの帰る人の業務をフリーにする、軽症患者や落ち着いている患者を担当する、緊急入院は担当しないなど業務負担の軽減が行われていた。また、管理者の取り組みとして、意識的に声をかけスタッフが帰りやすい職場の風土作りに取り組んでいた。

５）ピタッとカエルディに取り組んでいない理由

施設の特性上時間外勤務がほとんどないという回答が多く、応援体制が整っているなど仕組みが確

立しているという回答があった。しかし反面、緊急入院が多い、夕方に発生する指示受けなど施設の特性上困難である、業務上人員配置が難しいなどの回答があった。

6）ピタッとカエルディ以外に超過勤務削減のために取り組んでいること

残業はしない取り組み、部署間の応援体制、日勤･遅出業務の見直し、人員配置の見直し、補助者配置、ＰＮＳの導入、委員会を中心とした働きやすい職場環境作りへの取り組み、会議時間の短縮、病床編成（地域包括ケア病床の設置）、多様な勤務形態など、様々な取り組みがされていた。また、所属長は率先して早く帰る、看護部に限らずお互いに声をかけあい、チームでの協力、所属長の指示による業務調整で他のスタッフは帰すなど、管理者の取り組みが行われていた。

８．考察

今回、ピタッとカエルディに焦点を当てて現状調査を実施した。ピタッとカエルディに取り組んでいた施設は半数以下であったが、ピタッとカエルディの取り組みは、意識向上や雰囲気作りなど成果につながっていた。超過勤務の削減やピタッとカエルディの実施にあたっては、様々な取り組みの中で、業務改善や多様な勤務体制の導入、職種を超えた協力体制の整備、管理者の意識向上が必要だと思われる。

週末の連続休日

少なくとも１か月に１回以上は土曜・日曜ともに前後に夜勤のない休日をつくる。

夜勤・交代制勤務に従事しない人が約 8 割を占めるという社会の現状では、大多数の人々との生活リズムに合わせ、1 か月に 1 回であっても、週末の昼間の時間に家族・友人と過ごし、地域社会などと接する時間を持てるようにすることが大切と言われています。たまには、他の人たちと同じようにゆっくりした朝を迎えたいですね。また、家族や友人との週末の夜更かしや小旅行もいいのではないでしょうか？

週末の連続休暇については就業規則などには明記されていなくても、各看護単位の勤務計画表作成責任者の裁量によって、配慮されていることがあります。しかし、これがスタッフの家庭の状況や生活の背景によって必要な配慮なのではなく、すべてのスタッフが基本的に必要としていることだということを認識する必要があります。土日の勤務ができないスタッフへの配慮のためいつも週末働いているというスタッフがいたら、週末休みを希望したときに優先して必ず取得できるようにする、一日多く休みを付けるなどの「感謝の気持ち」を示すことで、「お互いさま」の気持ちが広がりそうです。

いきいきと生活・仕事している powerful age の紹介

株式会社花野訪問看護ステーション
管理者　伊尻　環

定年という年齢まで長い間、公的病院や行政、民間病院で長く勤めてこられた方々を対象に作られたパワフル age 委員会も 10 数年が経過したようです。

加齢というのは本当に早いものです。60 歳、70 歳とあっという年月でした。私自身 40 年近くを臨床の現場、保健所の行政を経験させて頂きました。ある時、妊産婦さんとの関わりをしたく南野千恵子先生の著書（助産院開設）の本を勉強させて頂きました。そうこうしているうちに少子化、高齢化の時代に入り夢破れた私の人生の一コマとなりました。

このまま定年を迎えるのは淋しいと思い、県看護協会に訪問看護ステーションを作るというお話があり初代管理職として迎えていただきました。４名のスタッフで慣れない職場でただ一目散に頑張りました。何事も初めてでした。しかし母の介護、死が重なり退職を余儀なくされた時、私には、身体的、精神的にまだ働く意欲が残されていましたのでステーションで学んだノウハウを活かし、ステーション開設に目を向け不動産屋さんから中古の一軒家を購入しました。９月から開設準備に取り掛かり 12 月に看護師３名で仕事を始める事になり、利用者様は４名で内２名は重症の脳性麻痺で入浴介助は必ずありました。当時は訪問入浴サービスもなく私達２名訪問で実施していました。訪問報酬も現在は複数名訪問もありますが、当時はなくボランティアの訪問看護だったのです。給料は２人の看護師のみ。私自身は６ヶ月無報酬でした。また、訪問範囲も鹿児島市内から加治木方面迄至りました。ハローワークでの看護師募集、知人を介しての相談をしているうちに利用者様も１人２人と増え、現在 13 名のスタッフで利用者様も少しずつ増えて参りました。助産院開設の夢から破れ、訪問看護ステーション開設の喜びを感じている現在です。スタッフも長く頑張ってくれています。認定看護師はいませんが、今後は認定看護師を含め看護師特定行為等の研修を受け地域医療の問題解決、在宅で自分らしく生きていきたい方々の支援に努めて参りたいと考えております。在宅で静かに老後を送りたい、入院はしたくないという皆様がいらしたらぜひご紹介下さい。主にメンタル的な方々へ力を注いでおります。よろしくお願い致します。

平成 29 年度 「保健師・助産師・看護師合同研修会」

～母子の切れ目のない支援のために　第2弾～

医療現場や行政の行っている母子保健の取り組み状況を共有し、保健師・助産師看護師・多職種が連携して今行っていること、今後できることは何かを考える。

平成２９年９月３０日（土）看護研修会館にて「保健師・助産師・看護師合同研修会」を実施しました。
保健師 33 名、助産師 22 名、看護師 26 名、医療相談員 1 名、臨床心理士 1 名の合計 83 名が県内から参加してくださいました。
また、各職能委員会合同で企画し委員 25 名も当日の運営、グループワークのファシリテーターとして生き生きと活動していました。

研修内容

報告「平成２８年度公益社団法人日本看護協会受託事業
　　子どもと子育て世代包括ケア推進のためのモデル事業報告」
報告者：保健師職能委員長　西原洋子氏

シンポジウム

テーマ **「看護がつなぐ母子の切れ目のない支援のために」**
座長：鹿児島県看護協会専務理事　原田ケイ子氏

1）南薩地域振興局保健福祉環境部健康企画課技術補佐　永濵　たか子氏
2）医療法人愛育会愛育病院外来看護師長　角田　亜美氏
3）医療法人明輝会よしの訪問看護ステーション看護師　室屋　孝子氏
4）鹿児島市健康福祉局こども未来部
　母子保健課課長（保健師）　吉住　嘉代子氏

グループワーク（地区別）

「保健師・助産師・看護師・多職種が連携して今行っていること、今後できることは何かを考える」

・顔の見える関係作り。行政や病院などの垣根を越えて、みんなで取り組んで行きたい。
・行政も病院も情報提供する時は、担当者を明確に。
・重症小児の訪問看護を行える施設が少なく、在宅支援のコーディネートをするところがない。支援調整会議などで様々な職種がかかわることで、みんなで解決策をみつけていきたい。
・行政からの情報のフィードバックを、病院でのケアに活かしていきたい。
・周産期のメンタルヘルスケアの勉強会を多職種も含めて開催してほしい。

他にも活発な意見がたくさんでました。参加されたみなさんありがとうございました。

性教育推進事業支援会報告

【第２回性教育研修会の報告】

窪田先生と二川先生

看護協会では「看護の出前授業」や鹿児島市性教育推進事業で、助産師等による性教育講演を行なっています。講演を重ねるにつけ、近年子どもたちを取り巻く家庭環境の変化・教育の格差・性の多様性など幅広い知識を持っての性教育が求められていると痛感しています。そこで、８月 26 日の第２回性教育研修会では、小中学校でご活躍中である二川政文先生（広木小学校教諭）と窪田聡美先生（北指宿中学校養護教諭）に、「教育現場における性教育の現状」について講演していただきました。参加者は助産師 26 名、看護師１名、学生５名でした。

（参加者の声）

・子どもたちが今どのような性教育を学校で学んでいるのか現状が聞けてとても参考になりました。「性」という言葉だけでも気分が悪くなる子がいたり、ＬＧＢＴの子がいたり、様々な子がいたので今後の性教育のあり方についてとても考えさせられました。先生方の講義がとても分かりやすく温かい語りが印象的でした。
・現在の子どもたちの声は思っているよりも収集がつかなそうで大変だと感じた。自分達が受けてきた性教育とは違って、ネットリテラシーなど時代に合わせた内容にしていくことが大事だと思った。

【第３回性教育研修会のお知らせ】

日時：平成 30 年２月２４日 (土)13:00 ～ 16:00　鹿児島県看護協会２階
講演：「助産師による性教育実際」（仮題）
講師：久永　房子　助産師
性教育にかかわる多くの職種・学生の方々の研修参加をお待ちしております。

平成 29 年度　鹿児島県看護協会　糖尿病重症化予防（フットケア）研修会

平成 29 年 7 月 13 日から 3 日間、計 17 時間の「糖尿病重症化予防研修」が開催され、県内より 36 名の方の参加がありました。今回のフットケア研修は、「糖尿病合併症管理料」の算定要件を満たす研修であり、日本糖尿病教育・看護学会との共催で県内初の開催となりました。

県内の糖尿病看護認定看護師 8 名と中尾友美先生（聖マリア学院大学看護学部）が講師･ファシリテーターを担当し、講義、グループワーク、実技を通してフットケアの知識・技術を学びました。実技では、受講生がペアとなり、お互いの足を観察したり、ニッパーやゾンデなどを用いて実際のケアを体験しました。初めての経験で緊張しながらも、一生懸命に取り組む姿がみられました。糖尿病足病変の重症化予防のためには、足病変をつくらない、悪化させない予防的フットケアが重要となります。今後、修了証を手にした研修生が一人でも多くの糖尿病患者のフットケアに携わって下さることを期待します。

（鹿児島大学病院　内科外来　糖尿病看護認定看護師　井手迫　和美）

平成29年度 入会受付中です !!

まだまだ 29 年度のご入会も受け付けておりますので、入会をご希望される方・申込用紙の不足などは ☎099-256-8081　鹿児島県看護協会　会員管理担当 までお問い合わせください。

平成30年度継続のご入会について

平成 29 年 9 月 27 日までに、平成 29 年度の会費を納入された方々に、「平成 30 年度継続のお知らせ」が日本看護協会より 11 月中旬以降に届きます。

9月27日以降に会費を納入された方々にも随時お知らせが届きますのでよろしくお願い申し上げます。

会員の皆様
平成 30 年度継続のお知らせが、届いたら・・・？

緑色の会員情報変更届けの提出は不要

自動継続されます。お知らせに記載されている会費納入方法にしたがって、会費をお支払いください

★継続を希望されない方は、鹿児島県看護協会（099-256-8081）にご連絡ください。

看護小規模多機能事業所フォーピース紫原を開設しました

平和会訪問看護ステーション
管理者　冨貴田　景子

＜医療法人平和会とは＞

平成 25 年に訪問診療・訪問リハビリを中心とするひさまつクリニック、26 年に平和会訪看護ステーション、27 年に平和会居宅護支援事業所を開設しました。4つ目の新しい事業所として、平成 29 年 8 月に看護小規模多機能事業所フォーピース紫原がオープンしました。

＜看護小規模多機能事業所　フォーピース紫原とは＞

平成 24 年に制度化された看護小規模多機能居宅介護事業所は、24 時間 365 日ご利用が可能で「通い」「泊まり」「訪問看護」「訪問介護」の4つのサービスをひとつの事業所が提供する地域密着型サービスです。看護職員を手厚く配置することによって、“看護”が在宅生活に密に関わり、医療ニーズの高い方・重度の要介護者の方が“地域で暮らす”ことを支援しています。県内でもまだ数が少なく、5 番目の事業所として開業しました。定員登録数は 29 名で、通い 1 日 18 名、泊りは 1 日 9 人まで受け入れが可能です。介護保険の利用で、要介護度に応じた月額・定額制利用料になります。建物は木造 2 階建てで、1 階にフロアスペースがあり、2 階が泊りのための部屋になっています。

『フォーピース紫原』の4つのピースは、プレジャー（楽しみ・喜び）・ポジィティブ（前向き）・パッション（情熱）・ピース（平和）です。ご利用者・ご家族が楽しく前向きに人生を過ごせるように平和会スタッフが情熱をもって支援し続ける事で、安心して暮らせる地域作りにも繋げていくことを方針として掲げています。

＜平和会訪問看護ステーションとの連携＞

平和会訪問看護ステーションは、併設型の訪問看護ステーションとして、平成 29 年 7 月に上之園から紫原へ移転しました。看護師・リハビリスタッフ全員がフォーピース紫原の兼任職員であり、馴染みのスタッフが自宅にも訪問し、施設にも関わっている体制です。

平和会訪問看護ステーション３周年記念

例えば、Aさんは末期がんのターミナル期の方（要介護５）で娘さんが働きながら介護されています。状態が不安定なので「訪問看護」で状態確認し、「通い」に行けるかどうかの判断をします。娘さんの仕事に合わせ、日曜日でも「通い」や「泊まり」が利用可能です。また、在宅での介護負担が大きい場合は、「泊まり」で看取りまで支援できる体制を取っています。Bさん（要介護５）は、認知症で高齢の夫と二人暮らし。夫の介護負担軽減のために毎日「通い」、週1～2回「泊まり」を利用されています。精神症状に波があり、自宅での転倒も多く「訪問看護」「訪問介護」で支援しています。

＜これからの展望＞

ひとりひとりのご利用者の在宅生活を支えるとは何かと考え、試行錯誤しながらオープン 1 か月が経ちました。9 月末現在で登録者数 15 名となり、これから益々質の高い看護・介護が求められると感じています。今後も、医療依存度の高い方でも“地域で暮らす”ことが当たり前の社会を目指して努力していきます。

フォーピース紫原外観図

期間限定

公益社団法人 鹿児島県看護協会 主催事業

期間中【2017年12月9日(土)~2018年1月8日(月・祝)】に限り

サンリオキャラクターパーク ハーモニーランド 無料ご招待

【会員とそのご家族様 対象】

入園+アトラクション利用のパスポートチケット(通常1名2,900円)が無料！ ※一部アトラクションは別料金となります。

★印がイルミネーション開催日

《営業時間》
※入園は閉園の1時間前まで
10:00~17:00
10:00~21:00
本企画は対象外
休園日

2017年 12月の営業時間

Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2018年 1月の営業時間

Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

※営業予想日：12月―23.24.29.30、1月―2.3.7。

イベント情報など詳しくはHPで！
ハーモニーランド 検索

Harmonyland
大分県速見郡日出町大字藤原5933番地
日出I.Cから約2分！(国道10号線沿)

アクセスMAP

©'76,'91,'99,'01,'05,'09,'12,'17 SANRIO

ご利用方法

下記利用申請書に必要事項をご記入の上、必ず「鹿児島県看護協会会員証または、電子会員証」と一緒にハーモニーランドチケット売場に提示してください。入園とアトラクション利用のパスポートチケットをお渡しいたします。

※「利用申請書」のみの提示、または「会員証」のみの提示では本企画をご利用できません。必ず、「利用申請書」「会員証」の2つを一緒に提示してください。

※企画内容・利用申請書の記載方法に関しては、協会窓口へお問い合わせください。

切り取り

鹿児島県看護協会 会員専用 ハーモニーランド利用申請書

(会員代表者を含む7名様まで)

【対象期間】2017年12月9日(土)~2018年1月8日(月・祝) P317

会員番号　　氏名

利用申請者(4歳以上の方) ※4歳未満の方は無料となりますので記入不要です。	氏名	氏名	氏名
●会員番号は会員様のみ記入	氏名	氏名	氏名

ご利用日　　月　　日

※お名前の記入欄が不足する場合は「利用申請書」をコピーしてご利用ください。

ご利用者合計数(4歳以上)　　名様

お買い物・お食事でもお得な特典が！ 園内で使えるお得なサービス券を、ご来園時にプレゼント！

地区だより

鹿児島地区

～ナースシップ　仲間をふやそう !! ～

鹿児島地区は、目指せ、看護協会員 6000 人 !! を目標に活動しています

鹿児島地区総会特別講演　平成29 年6月10 日（土）

講演：「一般病棟の認知症ケア」
講師：公益財団法人慈愛会　愛と結の街　施設長　黒野　明日嗣　先生

参加者が200名を超え、関心の高さが伺えました。認知症の方とのコミュニケーション方法や、不安を軽減するための対応の仕方などについて学ぶことができました。

教育委員会の活動

平成29年度は、専門職業人として豊かな感性と高い倫理観を備え、信頼される質の高いサービスを提供できる人材を育成することを目標とし、チーム医療が実践できるよう、看護職だけでなく他職種も参加できる研修を企画運営していきます。また、市民の皆さまの様々な健康ニーズに対応するために、技術・知識を身につけ、一人の人間として自己成長できるよう支援していきたいと思います。

委員長　宮内　幸子

医療安全情報ネットワーク委員会の活動

鹿児島地区医療関連施設の医療安全管理者が医療安全に関する交流を通じて、医療安全管理者の質の向上、活動に関する知識の蓄積・普及、および医療安全に関する意見交換、集約を行うことを目的として、年4回の会議を開催します。平成29年度は38施設が参加登録されました。医療安全管理者間の交流・情報交換、事例検討や分析を通して、医療安全管理者が抱える問題解決への足掛かりとなり、日々の活動に役立つ会議にしたいと思います。

委員長　図師　裕美

地域ケアサービス委員会の活動

鹿児島地区の地域ケアサービス委員会は、今年度も地域に根ざす看護協会活動として、9月2日看護展「まちの保健室」を開催しました。看護展では、多数の医療機関や多職種の方々の協力を頂き、毎年、楽しみにされている地域の方々にも、日頃の健康管理を見直す機会を提供できるようにしたいと思います。また、11月3日おはら祭り、11月19日市民健康まつり、CKDイベントなどにも参加し、地域に貢献できる看護協会活動を行っていきます。

委員長　前園　裕子

出版規約委員会の活動

私達は鹿児島地区の事業内容を看護かごしま及びホームページへ掲載し、地区活動の拡大と加入施設への広報活動を行っています。皆様に閲覧・活用して頂けるようなホームページを作っていきたいと思います。　委員長　今村　昌子

【ホームページの閲覧方法】
① 鹿児島県看護協会ホームページを検索
② ホームページ内のお知らせの地区活動をクリック
③ 見たい活動内容をクリックしてください

入会希望の方は

大隅地区　大隅の活動　～OOSUMIへようこそ　～

大隅地区集会　平成29年6月17日(土)開催

講演：「認知症患者と医療安全」
講師：川内市医師会立川内看護専門学校　前野かつ子先生
参加者：地区集会126名　特別講演会153名

鹿児島県看護協会副会長 下仮屋道子様にご出席を頂き、平成29年度大隅地区集会を開催いたしました。地区集会終了後の特別講演では、参加者から、「実践を交え、パワフルな説得力のある内容で明日からの意欲につながりました。楽しく学ぶことが出来、明日からの仕事に繋げていきたい。有意義な研修でした。」と多くの意見が聞かれました。高齢化とともに認知症看護を必要とする人々が増加し、今後、すべての看護職が直面する課題として、これからの認知症看護の実践に役立てていきたいと思います。

大隅新人看護職員多施設合同研修

＜第1回研修＞
日時：平成29年7月29日(土)開催
目的：大隅で働く看護職員同士の連帯感を高める
参加者：新人53名（男性12名、女性41名）2年目看護師8名、プリセプター10名、教育・OST10名の合計81名で開催いたしました。

終了後のアンケートには、みんなと悩みについて話すことができ、これからも頑張っていこうという励みになった、新人同士で話をすることで同じような悩みを持っていることが分かり、みんなと同じだと分かって安心した、2年目看護師の1年目の様子を聞くことで、今自分がやらなければならないことが見つかったなど、今後に繋がる前向きな意見が多く書かれていました。　（OST：近間眞由美）

医療安全ネットワーク活動紹介

大隅地区医療安全ネットワーク活動を開始して8年目に入りました。12医療機関が参加し、情報の共有・相談支援・研修等を通して多くの医療現場で充実した医療安全管理体制が整うことを目標に活動しています。　（副委員長：楠園美寿子）

教育委員会活動紹介

平成29年度は、昨年同様、専門職能としての社会貢献、看護職確保、地域ケアシステムにおける看護職の役割の強化を目的に掲げています。教育委員会として、今年度は、4回の研修会を開催予定としています。8月19日に第1回目看護研修会「脳卒中リハビリテーション看護」が開催され、56名の方に参加して頂きました。脳卒中患者の病態を理解し、自立支援へ繋げるを目的に、1)脳卒中の病態を理解する。2)ケアのポイントと自立支援を学ぶという内容で、実践を交えた研修会がおこなわれました。疾患の理解を深めるだけでなく、現場でケアに活かせる実践的な研修で大変勉強になりました。

また、第2回看護研修会として「フィジカルアセスメント」第3回看護研修会においては、「大隅地区における子どもと子育て世代包括ケア推進のために」と題して保健師・助産師・看護師の合同研修会が開催される予定となっております。第4回看護研修会については、「褥瘡ケア」一日研修を予定しております。看護職として、今後も、キャリアアップと看護の質・技術向上を目指してして大隅地区の医療、生活に貢献していきます。

（委員長：本山真紀子）

地域ケアサービス委員会

今年度の活動は4月、「エアメモリアルinかのや 2017」における救護活動と“町の保健室”での健康相談でスタートしました。イベント来客総数約24,000人、その中120件に及ぶ健康相談を受け、たくさんの感謝の言葉を頂きました。これも委員会活動における、これまで従事された諸先輩方が毎年積み重ねてきた実績が、このような声に繋がったのではないかと思っております。

今年度も9個のイベントに参加予定となっております。すでに8月に開催された「かのや夏祭り・夏の納涼花火大会」における救護活動を行いました。幸いに重度となる救護者もなく無事に活動を終えることができました。今後も9月から11月にかけて、近隣市町村のイベントでの救護活動と健康相談に参加していく予定です。

毎年の活動で、地域イベントへの看護協会の協力イメージも定着し、地域の皆様との交流の場となり頼りにされている実感があります。また、地域ケアサービス委員だけでなく、各施設から快く応援人員を派遣していただく協力体制もできており、会員施設の施設長をはじめ、実際に派遣人員として活動していただいた会員の皆様に深く感謝を申し上げます。今後も大隅地区看護協会の絆に感謝しながら、地域貢献に繋げていければと考えています。　（委員長：伊達　由和）　写真「ｴｱﾒﾓﾘｱﾙinかのや 2017」“町の保健室”での健康相談の様子

大隅地区看護管理者情報交換会・看護を語る会

地域の看護管理者の情報交換会を発足致しました。名称：「大隅の看護を語る会」です。第1回目を平成29年6月17日地区集会当日開催しました。看護管理者だけでなく、看護学校・大隅地域振興局保健福祉環境部の参加も頂き、参加者数15名でした。地域でのネットワーク構築と大隅地域の課題に取り組んでいきたいと考えています。

ナースセンターだより

Vol.122

届出制度（とどけるん）

届出制度とは、保健師・助産師・看護師・准看護師の免許を持ちながら、その仕事に就いていない方に、氏名や連絡先などを都道府県ナースセンターへ届け出ていただく制度です。

届出情報をもとに、**都道府県ナースセンター**が離職中の看護師等の方とつながりを保ち、それぞれの状況に応じて、復職に向けた研修、無料の職業紹介、相談員によるアドバイスや情報提供等の支援をおこないます。

※**都道府県ナースセンター**は法律に基づいて都道府県知事が指定する、看護職員確保の公的拠点です。

看護師等の届出サイト
とどけるん

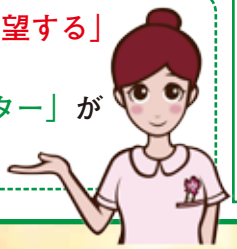
https://todokerun.nurse-center.net/todokerun/

希望する

無料職業紹介サイト
「ｅナースセンター」

ID とパスワードを入力します

登録時ナースセンターへの登録を◎「希望する」を選択すると、ナースセンターの求人・求職支援サイト「ｅナースセンター」が利用可能になります。



訪問看護管理者研修 ～ワールド・カフェより～ H29.9.16(土)

テーマ『地域で求められる訪問看護ステーションになるために』

講義：『訪問看護ステーションの運営と管理について ～今，管理者に求められるもの～』

講師：野崎 加世子先生　（訪問看護認定看護師協議会 代表理事）

いつもと違う雰囲気で，自由で，楽しく話が出来た。人の出入りで新しい意見に触れ合い，取り入れができた。話しやすく，意見も聞いてもらえた。

幅広い意見交換と初対面でもコミュニケーションがとり易く，カフェ感覚でリラックスして話し合えた。それぞれが役割を果たし，まとめ・発表まで充実していた。多くの情報や考えが飛び交い，新たな気づきやお互いの関係性も深まった。それぞれ，事業所の持つ強みを活かす努力をしたい。弱みは栄養として力にしていくなど。ワールド・カフェ初体験の方もいましたが，貴重な時間になりました。

＊台風18号に気をもみながらの研修会でしたが，『笑顔』が引き出され，最後は参加者全員が輝いていました。

強み

弱み

ワーク・ライフ・バランス（WLB）報告会のお知らせ

平成29年度看護職のワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ報告会を開催します。

日　　時　：　平成29年11月15日（水）13：00～16：10
場　　所　：　鹿児島県看護協会看護研修会館3階研修室
参加申込　：　平成29年10月28日まで

今年度は平成27年度からワークショップに参加された4施設と平成26年度から参加の1施設のご報告をいただきます。また、日本看護協会労働政策部の泊野香様を講師にお迎えし「働き方改革」をテーマにご講演をいただきます。ワークショップは今年度を持って終了となります。
たくさんの皆様のご参加をお待ちしております。

求人施設のみなさまへ

職業安定法が平成30年1月に改正されます

1）労働条件の明示
・求人登録時の労働条件の明示に加え、労働契約締結時の労働条件の明示が義務付けられました。
採用時には、求職者へ書面で労働条件を明示することが必要となります。

2）無期雇用就職者の早期離職等の報告について
・職業紹介事業所は無期雇用就職者の早期離職状況報告を行うことになります。ナースセンターの紹介により就業した無期雇用就職者について、6ヶ月後の就業状況を、メールまたは電話等で確認させていただきます。ご協力をお願いいたします。
※その他の改正内容等を含め、不明な点はナースセンターまたは労働局へお問い合わせください。

求人登録について

求人申し込みは以下の方法があります。最近ネットから直接求人登録をされる施設も増えています。

1）インターネットから直接求人登録する

無料職業紹介サイト
「ｅナースセンター」
https://www.nurse-center.net

※登録操作でお困りの場合はナースセンターへお電話いただければサポートいたします。

2）ハローワークで申し込む

「ハローワークかごしま」とナースセンターとの間で連携事業を行っています。ハローワーク求人登録と同時に「ナースセンターへの登録」を申し込んでください。

3）電話・ＦＡＸで申し込む

・お電話一本で受付いたします。
・求人内容の詳細について、ＦＡＸ・電話等でやり取りを行います。
・ハローワーク求人票をお送りいただきますと、同じ内容で登録いたします。
※お気軽にお電話ください。お待ちしております。

相談員が施設を訪問いたします

※今年度は月１回以上を目標に施設訪問を計画しています。相談員単独での訪問や、
求職者見学時の同行など、随時訪問させていただく予定です。
※施設の特徴やアピールしたい点などお聞かせください。就業支援へ繋げていきたいと思います。

再就業支援セミナー

看護職の復職支援セミナーを、未就業または再就業後１年未満の看護職を対象に開催しています。現在、第1回目（鹿児島市）と第2回目（薩摩川内市）を終え、受講生のうち13名の未就業者が病院、診療所、訪問看護ステーション、デイサービス、健診など臨時のお仕事で看護職としての再スタートを踏み出しました！第3回目のセミナーは10月に鹿児島市で開催予定です。

実習施設からのメッセージ

＊求職の期間が長くなるにつれ不安も大きく、再就職をためらうかと思いますが、同じ思いをしながら働いている人も多いので、助け合いながら頑張れると思います。
＊再出発への皆様の熱意に触れ、私たちも気持ちが引き締まる思いでした。今後も少しでも再就業に役立つことができるようご協力させていただきます。

平成29年度　ふれあい看護体験報告

今年度も看護の日の記念事業として、「ふれあい看護体験」が5月と夏休み期間に実施されました。各実施施設の工夫を凝らした内容に体験者の皆さんはとても満足していたようです。
ご参加いただきました実施施設の皆様、お忙しい中ご協力いただきましてありがとうございました。

実施施設	４９施設
体験者	４９４名
小学生	６７名
中学生	５９名
高校生	３４４名
一　般	２４名

担当者の感想より

・体験を通して、看護師として実際働く職員を目にすることで、進路を具体的に考えられる機会を提供できたと思う。
・看護の魅力を次世代に伝えることの大切さを感じる一日となりました。
・明るく笑顔で患者さんと会話し、触れ合う事ができた事は、貴重な体験となったと思います。夢に向かって頑張って欲しいと思います。

体験者の感想より

・体験することで看護師になりたいと思う気持ちが強くなりモチベーションも上がりました。
・看護師の仕事は人とのコミュニケーションが大切な仕事だと改めて思いました。
・体験を通して、どの仕事にも人を思いやる「心」が大切だと思いました。
・相手の気持ちを考えながら患者さんを支え、命に寄り添う事のできる看護師の仕事は素敵だなと思いました。

「とどけるん」：届出状況
2015年10月～2017年5月までの届出状況
全国５１０７８名　鹿児島県１０１０名

【eナースセンター】：求人・求職登録状況

平成29年	6月	7月	8月
求人数(人)	597	583	560
求職者数(人)	426	404	375
就業者数(人)	28	58	40

鹿児島県ナースセンター
〔看護師等無料職業紹介所　４６-ム-０１０００２〕
◆相談窓口◆　※予約不要
相談日：月～土　午前９：００～１２：００
午後１：００～　４：００
（土曜日は３：00まで）
〒890-0064 鹿児島市鴨池新町21-5
TEL：099-256-8025
FAX：099-256-8079
mail：kagoshima@nurse-center.net
ホームページ　http://k-kango.jp/

理事会報告

第３回　理事会
日時：平成 29 年 7 月 8 日（土）13:30 ～ 16:00
16 名出席

◆ **協議事項**
1　基本方針
1)　県知事への要望書について
・平成 30 年度事業・予算要望について
2)　平成 29 年度通常総会を踏まえての事業展開について
2　事業推進に関する事項
1)　平成 29 年度地域における看護職のネットワーク強化事業について
2)　子どもと子育て世代包括ケア推進のためのモデル事業の実施について
3)　30 年度医療介護総合確保基金の申請について
4)　訪問看護理解・連携事業について
5)　訪問看護事業者実態調査について
3　管理的事項
1)　平成 30 年度の通常総会及び今後の総会日程の在り方について
2)　鹿児島市との災害支援協定について
3)　公益法人の各機関の役割と責任について
4)　平成 31 年度慢性期看護学術集会の開催準備について
5)　日本看護協会「看護職の賃金モデル導入支援者研修」の開催について
4　会員支援
1)　ナースシップ（キャリナース）の周知について
2)　看護職の厚生労働大臣表彰受賞者の推薦について
3)　鹿児島県公衆衛生協会長表彰者の推薦について

★ **報告事項**
1　基本方針
1)　平成 29 年度日本看護協会通常総会について
2)　平成 29 年度看護サミットについて
2　事業推進に関する事項
1)　教育事業について
2)　看護職員県内就業促進事業について
3)　看護職員就業相談事業について
4)　県総合防災訓練について
5)　看護の日記念行事について
3　管理的事項
1)　理事会・運営委員会議事録について
2)　平成 29 年度本会役員・常任・特別委員会名簿
3)　受動喫煙の防止を強化・実現するための署名について
4　会員支援

第４回　理事会
日時：平成 29 年 9 月 16 日（土）13:00 ～ 15:30
15 名出席

◆ **協議事項**
1　基本方針
1)　平成 30 年度の県看護教員養成講習会開催への支援について
2)　認定看護管理者研修について
2　事業推進に関する事項
1)　平成 29 年度地域における看護職のネットワーク強化事業について
2)　子どもと子育て世代地域包括ケア体制推進について
3　管理的事項
1)　鹿児島市との災害支援協定について
2)　平成 31 年度慢性期看護学術集会の開催準備について
3)　鹿児島県看護協会臨時職員就業規則の改正について
4)　九州地区法人会及び連絡会の協議事項について
4　会員支援
1)　平成 30 年度改選役員・推薦委員並びに平成 31 年度代議員及び予備代議員の公募について

★ **報告事項**
1　基本方針
1)　平成 30 年度予算に係る知事への要望書提出について
2　事業推進に関する事項
1)　教育事業について
2)　看護職員県内就業促進事業について
3)　看護職員就業相談事業について
4)　訪問看護理解・連携促進事業について
5)　訪問看護事業者実態調査について
6)　各県地区役員等研修について
7)　シンポジウム等への協力について
8)　看護職の賃金モデル導入支援者研修について
9)　平成 29 年度災害支援ナース派遣調整合同訓練
3　管理的事項
1)　理事会・運営委員会議事録について
2)　研究倫理委員会の開催について
3)　日本看護協会のタグライン等について
4　会員支援
1)　平成 29 年度鹿児島県看護協会員数
2)　キャリナースの構築について
3)　ハーモニーランド冬季イベントについて

※毎回、日本看護協会理事会報告、職能委員会報告、地区報告、地区長情報交換会報告を口頭で、委員会報告他団体会議報告、県外出張報告を書面で行っています。

広報委員より～皆様の愛用グッズ大募集!!～
看護かごしま 162 号では“看護師のあるある！”ユニフォームのポケットの中身を紹介しました。次回 170 号では『あなたのリラックス・リフレッシュグッズ』を紹介します。看護協会メールに、勤務場所（内科・外科）・年齢とともに、画像をお寄せください。

編集後記

気持ちのいい秋風が吹き渡るころとなりました。いかがお過ごしですか。
現在、認定看護分野は 21 分野ある中、県内で活躍されている 20 分野 25 名の認定看護師を紹介してきました。次回は専門看護師の紹介予定です。
広報委員一同

看護専門職として社会に貢献しよう　会員の増加と福祉の向上のため活動しよう

公益社団法人
鹿児島県看護協会
Kagoshima Nursing Association
鹿児島市鴨池新町21-5
TEL.099-256-8081　FAX.099-256-8079
URL　http://k-kango.jp
E-mail　kakankyo@orange.ocn.ne.jp